

施策評価シート(平成30年度)

(基本施策の大綱) 1. 快適さを支える生活基盤の向上

(基本施策) (4) 道路の保全・整備

(評価担当者)

産業建設部長

大澤 哲也

■ 基本施策が目指す姿

市民が、保全・整備された道路を利用して、安全で快適に生活を送っています。

■ 関連する分野別計画

■ 成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	R1	R2	R3	
1	都市計画道路の整備率	%	58.1	H27	58.1	61.9				70.0
2	市道の改良延長	km	-	H27	0.17	0.17				2.5
3	橋梁の耐震化率	%	45.5	H27	46.4	48.2				50.0
4	道路環境美化ボランティア活動団体数	団体	9	H27	10	11				14
5										

■ 市民アンケート調査

項目			現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	国道などの幹線道路が整備されている	重要度	1.21	1.18		
		満足度	0.31	0.31		
2	生活に身近な道路が整備されている	重要度	1.35	1.32		
		満足度	0.28	0.26		
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				
5		重要度				これまでの取り組みの成果は表れているものの、さらなる施策展開により、満足度を向上させていく必要がある。
		満足度				

■ 総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
A 順調に進んでいる	幹線道路の整備である市道野村布気線、市道と賀白川線の整備は、まずまず進んでおり、また、国・県の道路整備も進んでおり、個別判定をA判定としている。生活道路の充実及び安全に配慮した道路整備の橋梁耐震化も順調に施策推進が図れており、個別判定をA判定としている。道路の適正な維持管理については、橋梁長寿命化や市道川崎白木線の舗装修繕などまずまず進んでおり、個別判定でB判定としている。基本施策に設定した4指標は上昇しており、基本施策の目指す姿に向け、各施策の推進により順調に近づけていると考えられることから、総合判定をAとした。
反省点・課題	
幹線道路の整備として、市道野村布気線の供用開始に向け、鋭意工事の進捗を図っているが、道路ネットワーク及び市内環状線構想を踏まえ、市道と賀白川線の国道1号亀山バイパス以北の供用が求められている。また、社会資本整備総合交付金など国の交付金事業については、交付金の配分率が年々下がっており、財源確保が大きな課題となっている。都市計画道路の見直しを進めていくには、地域の合意形成が不可欠である。鈴鹿亀山道路のルート決定がされたが、国道1号関バイパスも含めた広域幹線道路の整備について、関係機関と連携し、早期整備に向けた取り組みを継続する必要がある。 市道以外の道路においても、白線や横断歩道等の消失が見られる。道路環境美化ボランティア団体の確保が必要である。	

今後の展開方針

幹線道路の市道野村布気線は、令和元年7月に供用開始し、市道と賀白川線については、国道1号亀山バイパス以北の事業進捗を図っていく。地域の生活道路の改良については、地域の合意形成を図り、実情に合った整備を進めるとともに、橋梁耐震、橋梁修繕、舗装修繕については、国の交付金を活用し、計画的に進めていく。都市計画道路の見直しについては、地域の合意形成を図るとともに、関係機関との協議・調整を進めていく。広域幹線道路の整備については、早期実現に向けた取り組みを、関係機関と連携し、さらに強化していく。白線や横断歩道等の修繕について、道路管理者に働きかけるとともに、道路環境美化ボランティア団体の増加に向け、企業への働きかけや活動状況のPRに取り組む。

(施策の方向に関する評価)

施策の方向		幹線道路の整備					
(個別判定)	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A		市内環状道路の整備として、市道と賀白川線の北伸部の用地測量が完成し、一部用地買収を行った。市道野村布気線については、令和元年7月供用開始に向け、残工事を進めた。 国道1号関バイパス及び鈴鹿亀山道路について、市民団体と協働し、意見交換や要望活動を行った。		市内の幹線道路の整備は、本市にとって交通渋滞の緩和、「人・もの・情報」を運ぶ幹線道路の果たす役割は重要である。その様な観点からも、計画的な幹線道路の整備に向けて、進捗は図れている。 国・県の道路整備については、早期整備に向けて要望活動など働きかけを行う事で、鈴鹿亀山道路のルート決定がなされた。			
順調に進んでいる							
関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額 [千円]		活動	成果
	17015	都市計画道路整備事業（和賀白川線）	主	50,100	/ 49,643	B	B
	17016	都市計画道路整備事業（野村布気線）	主	403,322	/ 386,561	B	B
事業以外の取組	内容					活動	成果
	国道1号関バイパス建設促進同盟会要望活動					A	B
	鈴鹿亀山道路建設促進同盟会要望活動					A	A

施策の方向		生活道路の充実							
(個別判定)		活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】		評価	【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A			道路の安全性や防災機能を向上させるため、歩行空間の確保、狭あい道路の改善や地域の実情にあった生活道路の整備を図った。 また、個人や路線単位での、道路後退の事業の進捗を図った。			道路利用者の安全性や利便性の向上を図る上で、生活道路の整備は重要である。その様な観点からも、交通上のネック箇所、危険箇所解消が図れている。 また、狭隘な生活道路の解消が図れている。			
順調に進んでいる									
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]		活動	成果
	17017	狭隘道路後退用地整備事業			主	15,800 / 6,865		B	B
	8075	市単道路整備事業			標	1,870 / 1,770		A	A
	8206	山下8号線整備事業			標	5,350 / 5,096		A	A
事業以外 の取組	内容							活動	成果

施策の方向		安全に配慮した道路整備						
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】			
A		平成23年度策定の橋梁耐震化補強事業計画に基づき、耐震設計(西畑橋ほか2橋)を行うとともに、耐震補強工事(三寺橋)を計画的に実施し、震災時に重要となる道路に架かる橋梁の耐震補強を図った。			各地の防災拠点や避難地を連絡する道路に架かる橋の耐震化により、大災害発生時における人命の安全、被害拡大防止、災害応急対策を円滑に図ることができる。			
順調に進んでいる		活動			評価			
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]	活動	成果
	17024	橋梁耐震化補強事業			主	24,643 / 24,643	B	B
	17036	東海道街道環境整備事業(布気小野線)			標	16,000 / 15,727	A	A
事業以外の取組	内容						活動	成果

施策の方向		道路の適切な維持管理							
(個別判定)		【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】			【左記の活動により、施策は推進できているか】				
B	活動	平成23年度策定の橋梁長寿命化修繕計画に基づき、高速道路に高架している橋梁補修工事を実施するとともに、補修設計(筆捨橋、星田橋、北山橋、布気跨道橋)を行った。平成26年度策定の舗装維持管理計画に基づき、舗装修繕(市道川崎白木線)を実施した。また、道路美化ボランティア団体等との協働による道路環境美化に取り組んだ。			評価	予防保全型の考え方を取り入れ、効率的・効果的な修繕ができている。また、橋梁についても、修繕費のコスト削減が図れ、延命な維持管理に努めることができた。道路美化ボランティア団体との協働による道路の環境美化に努めることができたが、大きな活動団体の増加には至らなかった。			
まずまず進んでいる									
関連事業	番号	事務事業の名称			区分	予算額/決算額 [千円]		活動	成果
	17018	橋梁長寿命化修繕事業			主	73,782 / 73,781		B	B
	17019	舗装老朽化対策事業			主	32,800 / 32,473		B	B
事業以外の取組	内容							活動	成果
	亀山市道路環境美化ボランティア推進							A	A